



Takashi Ito Exhibition 恋する虜
————— The Dead Dance

2009.1.17 (Sat) 13:00 ~ 20:00

18 (Sun) 12:00 ~ 17:00

入場無料・随時入場可

会場：京都芸術劇場 春秋座

主催：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

Takashi Ito Exhibition

恋する虜

The Dead Dance

京都造形芸術大学舞台芸術研究センターでは、創造現場と研究活動を緊密に連携させながら、ジャン・ジュネのテクストに基づいてダンス作品を創作するプロジェクトを2年間にわたって展開し、公開リハールやパレストナ問題をめぐるシンポジウム、上映会など、多様な関連イベントの実施を経て、2008年3月にひとまずの総括となるダンス公演『恋する虜—ジュネ/身体/イメージ』を開催した。本展は、日本を代表する実験映画作家として知られ、公演に映像スタッフとして参加した伊藤高志によるその映像インスタレーション版であり、「イメージ」という主題を通してダンス作品を再検証する試みである。

芸術作品は数えきれないほどの死者たちに捧げられているのだとジュネは言い、また、現代の都市で劇場が建設される唯一の場所こそ墓地なのだとも述べている。ダンス作品『恋する虜—ジュネ/身体/イメージ』も、さまざまな「死者たち」を召喚するものとして上演された。そしてそこではダンサーたちの身体と映像の関わりがなかで、伊藤高志の作品に通底する「不在」「亡霊」「分身」「倒錯」などのテーマが、ジュネの言葉と響きあいつつ浮かび上がっていたはずである。今回の映像インスタレーション版では、ダンス公演が行われた同じ京都芸術劇場・春秋座の空間を舞台に、文字どおりイメージとなった「死者たち」だけが登場し、踊ることになる。

もちろん単なる再現でも再現でもなく、いわばそれ自身がダンス作品の「分身」であり「亡霊」である。実在と不在、現実と幻影、エロスとタナトスが、ジュネの言葉にええば「手袋のように裏返る」ことによって、ダンスはどのように現れ、劇場はどんな空間へと変貌することになるだろうか。観客を「死者たち」の国へと誘いながら、今日における映像と身体の関係性を改めて問い直してみたい。

【映像】伊藤高志

'83年九州芸術工科大学画像設計学科卒業。大学在学中、松本俊夫のもとで実験映画を学び本格的に映画制作を開始。卒業制作で16ミリ映画『SPACY』(81)を発表。国内外で高く評価され1995年にフランス・クレルモンフェラン短編映画祭にて「短編映画の1世紀」の100本の中の1本に選出される(パリ、ポンピドゥーセンター所蔵)。84年より映画配給会社シネセゾンに勤務する中、毎年1本のペースで実験映画を発表。93年より京都芸術短期大学の教師となり『ZONE』(95)『モニタームヘッド』(97)などの自己の内面を掘り下げる短編映画を制作。また石井聰互や林海象の劇場映画における特撮、制作家如月小春や川村敏、美術家森村泰昌、ダンサーの山田せつ子や伊藤キム、若下徹といった他ジャンルのアーティストとのコラボレーションも積極的に行っている。現在、京都造形芸術大学映画学科教授。



【サウンド】 稲垣貴士

【コンセプト】 八角聡仁

【音響】 大久保歩 (KWAT)

【映像アシスタント】 新垣巨洋 藤原大輔

【宣伝美術】 五十川あき

2009.1.17 (Sat) 13:00 ~ 20:00

18 (Sun) 12:00 ~ 17:00

入場無料・随時入場可

*17日15:30 ~ 劇場ホワイエにて関連トークを開催 出演：伊藤高志、他

会場：京都芸術劇場 春秋座

主催・お問合せ：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

Tel: 075-791-9437 Fax: 075-791-9438

Mail info@k-pac.org URL http://www.k-pac.org/

アクセス

- JR「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸術大前」下車(京都駅から約50分)
- 市営地下鉄「丸太町」「北大路」駅から
京都市バス204循環に乗車、「上終町・京都造形芸術大前」下車(約15分)
- 京阪電鉄「出町柳」駅から
叡山電鉄に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩10分。
- 駐車場はございません。お車・バイクでのご来場はご遠慮ください。

